

1 本年度の重点教育目標

よりよく考え、確かな自信をもつ子どもの育成

2 本年度の取組の重点

- ①多様性を理解し、思いやりの心をもって、自分の友達も大切にできる子の育成
- ②ねらいを理解し、見通しをもって自ら学び思考することができる子の育成
- ③好きなことや得意なことを増やし、自信をもって表現できる子
- ④しなやかに力強く、目標達成に向かって努力する子
- ⑤学校運営協議会による学校を核とした地域づくりへの貢献
- ⑥子どもと向き合う時間の確保

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
②かのよいこ ①多様性を理解し、思いやりの心をもって、自分の友達も大切にできる子の育成	コミュニケーションの基本としての挨拶や返事などを通し、公共性、社会性を育むことができたか	a	挨拶の励行を基本に、学習規律への位置付けや特別活動などを通して、指導の充実、工夫改善に努める。	A	A	
	自分も友だちも大切にする判断力や行動力を高めることができたか。	a	教育相談週間・いじめ対策会議の継続や関係機関との連携をすすめ児童一人一人に寄り添う指導ができた。	A	A	
②か ②ねらいを理解し、見通しをもって自ら学び思考することができる子の育成	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学習端末を効果的に活用することができたか。	a	教育課程に沿ってねらいを明確にして児童自ら学び続け、学習端末の活用をさらにすすめるとともに伝え合う力を伸ばす学習活動をさらに充実させていく。	A	A	
	基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫改善を推進することができたか。	b	「学習のきまり」を基本に協働的な学びと個に応じた指導のさらに充実や確かな学力の定着に努める。	A	A	
①しんをもつこ ③好きなことや得意なことを増やし、自信をもって表現できる子の育成	生活を振り返り、課題の解決に向けて行動する特別活動や道徳科、教科の授業を通じ、自信をもって表現することができたか。 (パワーアップ中島)	b	日常的に生活を振り返る機会を作るとともに、解決に向けて自ら行動する力を育む特別活動（学級活動や委員会活動、クラブ活動等）の充実を図る。	A	A	
	多様な他者と協働し自分らしく表現する力を伸ばすことができたか。	a	「ふるさと学習」を通して自分たちの地域のよさを知り、多様な他者と協働していこうとする姿勢を培うことができた。	A	A	
④けがないこ ④しなやかに力強く、目標達成に向かって努力する子の育成	学校の教育活動全般を通して、自分で目標をもち、計画的に実践することができたか。	a	児童が目標に向かって努力できるよう職員の協働意識が定着しており、さらに目標や課題を共有し協働して取り組むことに努める。	A	A	
	望ましい生活習慣の定着や健康や体力向上を図る活動を推進することができたか。	b	体力向上の取組の工夫を課題ととらえ家庭と連携した望ましい生活習慣の確立に努める。	A	A	
地域連携	学校運営協議会による学校を核とした地域づくりを推進することができたか。	a	地域の人材等を効果的・積極的に活用することができた。さらに推進できるように努める。	A	A	廉売、子ども園、老人ホームなどの施設を利用して、社会的見聞を拡大することは大変よいことです。
働き方改革	子どもと向き合う時間の確保を第一とした教職員の業務改善を進めることができたか。	b	職員の協働意識が定着しており、子どもたちのために一丸となって業務にあたるよさがある。一方で心身ともに健康で子どもの前に立てるようさらなる業務改善が必要と考える。	B	B	その日に完結しなければならない仕事もあると思います。時間外0時間は困難だと思いますが、改善の工夫をしてください。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。